

第32回全国ラージボール卓球大会 一般男子2位

みやした しんたろう
宮下 慎太郎さん(35)



スポーツの盛んな小林市で 卓球の魅力を広げていきたい

一般的な卓球(硬式卓球)と比べ、球の大きさやネットの高さの違いなどからラリーが続きやすいと言われるラージボール卓球。競技者の年齢層が幅広く、全国大会では85歳以上の部もあるほどだ。

昨年11月、第32回全国ラージボール卓球大会(一般男子の部)が開催され、小林市在住の宮下慎太郎さんが見事準優勝に輝いた。

鹿児島市出身の宮下さんと卓球の出会いは、中学1年の部活動見学の時。当時の卓球部の顧問に誘われたのがきっかけで卓球人生がスタートした。

当時の卓球部顧問は県内でも有名な指導者で、練習が厳しいことでも知られていた。卓球初心者の宮下さんは、そのハードな練習に何度も部活を辞めそうになった。しかし、負けず嫌いな性格が途中で投げ出すこ

とを許さなかった。

「やり始めたからには相手にも、そして自分にも負けたくないとの思いで続けました」。

強い思いで努力した結果、中学2年から全国大会に出場するレベルの選手に成長。高校でも、卓球の強豪校に進学し、1年生のときからインターハイや国体で活躍した。

高校卒業後は陸上自衛隊に入隊した。各地を転々としていた昨年4月、えびの駐屯地に赴任した際、以前親交のあったえびの市内の卓球教室に入会。そこで出会ったのがラージボールだ

った。

「ラージボールを始めた頃は、硬式とのスピード感などの違いに戸惑いました」。

しかし、中・高校で培った技術と持ち前の負けず嫌いな性格で練習を続けた。その結果、半年後の全国ラージボール卓球大会で準優勝につながった。

「卓球は初心者でも、何歳からでも気軽に楽しめるスポーツ」と卓球の魅力を話す宮下さん。小林で卓球の普及・競技レベル向上のために、卓球教室を開くことを決意。陸上自衛隊を退職し、現在開設に向けて奔走中である。

卓球の指導者として、宮下さんの人生の第二セットがここから始まる。



写真①試合中の宮下さん ②硬式球とラージボール球。左のラージボールが4センチ大きい